

第1学年 図画工作科学学習指導案

題材 ぼく・わたしとせんせい

指導観

○ 本題材は生活体験をもとに、楽しかったこと、嬉しかったことなど心に強く残ったことを思い出し、パスやクレヨンなどを使って楽しく絵に表すことがねらいである。本題材を児童が取り組む上で次のような価値があると考えられる。

- ① 今までかきためた「おしらせカード」を見て生活体験をふり返ることで、日常生活の中から思いを広げ、意欲的に表現していくことができる。
- ② 学校生活のあらゆる場面の中から、一人一人が先生と関わった自分の思いに合わせて、人物の動きや色について思いを広げることができる。
- ③ 表したい人物や周りの様子を、パスや共用の水彩絵の具を使って自分の表し方で表すことができる。
- ④ 鑑賞の活動を通して、自分の思いを友達に絵で伝える喜びを味わいながら、自分の作品に自信をもつことができる。

○ 本学級の児童はこれまでに「絵に表す」内容において、「楽しかった運動会」の題材でパスを中心とした描画材で取り組んだ。楽しかった様子を表した運動会の絵では、主題がはっきりするように画用紙の中心に自分の姿を大きく表現して描いている児童と、自分と友だちを数多く描き、場面全体の様子が分かるようにを表現している児童とがいた。しかし、中には表したい様子を思い浮かべることが難しかったり、何をどのように描いたらいいか分からなかったりと、表し方を迷っている児童も見られた。また、自分が思っている通りの表し方が難しく、自分の作品に自信がもてない児童が見受けられた。

そこで、日頃の生活体験の中に絵に表現する題材が無限にあることに気付かせたり、自分自身で表現を工夫していくことに価値があることを知らせたりして、絵に表す自信と表現への意

欲を高めていきたいと考える。また、学習の過程で自分の思いに添った表現ができていくかふり返る時間をとる。そうすることで、表現の過程で十分な満足感を味わい、それが自分の作品に誇りをもつことにつながると考える。

- 本題材の指導にあたってはまず、この題材に向けて「学習時間」「休み時間」「給食時間」など、学校生活で友達や先生と関わり合って嬉しかったこと、心が温かくなったことなどを「おしらせカード」に文で日々書き綴っておく。カードには、「〇〇さんと一緒に～をしたのが楽しかった。」など、相手を意識して書くことができるようにする。カードに何を書いたらいいか思い浮かばない児童には、対話を通して人と関わり合った時の気持ちを一緒に考え、生活体験が児童の心に刻み込まれるようにする。また、文章で書き表すことに抵抗がないように、パターン化した文を提示するなど配慮する。

次に表現の活動では、動作化をしたり生活の様子を写真で提示したりして、何を描けば主題が明確になるのか具体的に考える時間をとる。線描きではパス、クレヨンを基本とする。彩色の活動では自分なりの表現方法を見付けられるような資料を提示する。

最後に鑑賞の活動では、お互いの作品を鑑賞する場を設定し、自分や友達の作品の形や色のよさや面白さに気付き、共感できるようにする。

目標

- 先生との生活体験をもとに、絵に表していくことを楽しもうとする。

(造形への関心・意欲・態度)

- どんな場面にするのかを考え、表したいことに合わせて形や色について具体的に思い浮かべることができる。(発想や構想の能力)

- 自分の思いが伝わるように、パスの使い方を工夫して思いのままに表現することができる。

(創造的な技能)

- お互いの作品を鑑賞し合うことで、一人一人の違いのよさに気付き、鑑賞することの楽しさを味わうようにする。(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全6時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
題材に出合う	1. 日頃書きためておいた「おしらせカード」をもとに先生との生活体験を思い起こす。	○				<ul style="list-style-type: none"> 「おしらせカード」を読み返して、その時々思いを楽しみながら思い起こすことができる。 <p style="text-align: center;">（関）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体験や関心などをもとにつくりだす喜びを味わうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> カードを読み返す時間をとり、出来事を思い起こすことができるようにする。 カードにどんなことを書いているのか隣の席の人と交流し、児童の興味関心を喚起する。
	2. 「おしらせカード」の中から表したい場面を1つ選ぶ。					<ul style="list-style-type: none"> 先生との生活体験の中から、絵に描き表したい出来事を自分で一つ選ぶようとしている。 <p style="text-align: center;">（発）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いをもとに豊かに出来事を思い出すこと。 	
線描きする	3. 生活体験を思い起こしながら自分が表したいものから線描きをする。			○		<ul style="list-style-type: none"> その時の気持ちを考えたり、動作化をしたりしながら集中して線描きしている。 <p style="text-align: center;">（技）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何をしている場面かが分かるように工夫して表していること。 	<ul style="list-style-type: none"> 線描きに戸惑っている児童には手や足、顔の感じはどうだったのか対話や動作化を通して確かめることができるようにする 交流する時間を持ち、個々の表したい思いをはっきりさせる。 児童の思いにあった表現ができるよう、紙の上で十分に指描きをさせた後線描きに移る。 どのように描いたらいいのかわからない児童に
	(2時間) 本時1/2時			○		<ul style="list-style-type: none"> 画用紙のどの位置に人物を配置すると自分の思いにあった表現ができるか考え、線描きすることができる。 <p style="text-align: center;">（技）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人物の目や手の動きなどを強調したり、周りの雰囲気を出すためにその場にあるものを描いたりしている。 <p style="text-align: center;">（発）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことを思いのままに表すこと。 描きながら新たに思いついたことをかくこと。 	

						は、人物の体の動きが分かるように手・足が動く人形模型を準備し、個別に支援する。
彩色する	4. 自分の思いが表れるよう表し方を工夫し、パスや共用の水彩絵の具などで彩色する。		○	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い描いたものにより近づけていくために、べた塗りや重ね塗り、ぼかしなどパスの使い方を工夫しながら彩色している。(技) 表したいものの感じを出すことができるよう、周りの様子をパスや共用の水彩絵の具などを使って彩色をしている。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな色や感じた色をぬること。 描きたい場面の様子にあった技法を選び、彩色すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室にパスのいろいろな技法を掲示する。 彩色に自信のない児童が、色を試しながら安心して彩色を進めていけるように試しの紙を準備しておく。 描きたい背景の様子に合わせタンポや大筆などを準備する。
	5. 途中の作品を交流し、友達の表し方のよさを見付け、自分の表現に生かす。 (3時間)		○	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品から、表し方のよさや工夫を見付けている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 見ることに興味をもち、友達の作品のよさを自分の作品に取り入れたり、自分の表現をふり返ったりすることができる。 	
鑑賞する	6. 自分の作品について話をし、友達の話を聞いて鑑賞会をする。 (1時間)	○		<ul style="list-style-type: none"> 出来上がった作品を友達や先生に見せながら、何をしている場面か、その時の気持ちなどを進んで話している。(関) 友達の作品を見て、表現のよさに気付くことができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達が描いた作品を見ることを通して、一人一人の感じ方を大切にし、見ることや表現することの楽しさを味わうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品をすぐに見られるような場の工夫をする。 お互いのよさを共有できる活動を提案する。

本時目標

- 「おしらせカード」をもとに、絵に表したい場面を自分で選び、その時の様子や気持ちが伝わるように、線描きすることができる。

(発想や構想の能力)

授業仮説

日頃書きためた「おしらせカード」をもとに心に残った場面を思い起こせば、絵を描く内容が明確になり、楽しみながら線描きをすることができるであろう。

- 生活体験の中で心に残った出来事を思い起こすことができるように、プロジェクターで写真を映し出したり、動作化を取り入れたりしながら心が動いた瞬間を思い出せるようにする。
- 隣の席の友達や教師との対話を通して、児童が絵に描き表したい場面を想像し、楽しみながら線描きできるようにする。

準備

- おしらせカード ○四つ切り画用紙 ○パス
- クレヨン ○人物模型 ○図工ノート
- 水性ペン

本時の指導と評価の考え方

本時は、日々書き綴ってきた「おしらせカード」をもとに、その時の気持ちや様子を思い起こし、カードの中から自分が一番知らせたい出来事を選んで線描きをする活動である。

前時までに、「おしらせカード」に共感的な気持ちを毎日教師が書き添え、日常生活の中から知らせたいこと、表したいことを児童が進んで見付けることができるようにしておく。

本時の指導にあたっては、まずはじめに、自分が書いた「おしらせカード」を児童一人一人が読み返し、その時々気持ちを思い起こすことができるようにする。

次に、「おしらせカード」の中で一番心に残

ったことはどの出来事なのかクイズ形式にして隣の席の児童と交流する。描き表したい絵の内容を友達から温かく受け止めてもらうことで、認められた安心感から表現意欲がさらに高まり、表したい場面を明確にもつことができると考える。

描き表したい場面を選ぶことに戸惑っている児童には、今までの出来事やその時の思いと一緒にふり返りながら個別に助言をし、表したい場面を選ぶことができるようにする。

描きたい場面を児童が選んだら、動作化をして、「風が顔にビュンビュン当たって気持ちよかった。」「手が赤くなるほど力いっぱいにぎりしめたよ。」など印象に残った出来事の思いや様子をほり起こす。そして、児童の持つイメージを膨らませ、主体的に絵を描きたい思いを高めさせる。

そして、描きたいものを画面のどこに、どのように描くかを考え、画用紙の上で指描きをしたり、手のひらを画用紙の上に置き、描く場所を考えたりできるようにする。画用紙と向き合う時間をとり自分の思い描いた場面が明確になったところで線描きをする。描画材はパスやクレヨンでの線描きを基本とするが、細かいところを書き表したいという児童には水性ペンを用意しておき、自分の思いに合った表現ができるようにする。何をどのように描いたらいいか戸惑っている児童には、手足や首が動く紙製の人物模型をヒントコーナーに準備しておき、それを自由に動かすなどしながら表したいものが明確になるようにする。

評価にあたっては、図工ノートや評価補助簿を活用し、個に応じた助言や資料の準備をしていきたい。また、児童の活動をもとに対話や言葉かけによる支援を行っていき、児童の表したい思いを見取りながら次時へと学習意欲をつなげていく。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学 習 活 動	具体の評価規準	指 導 事 項	指 導 方 法
導 入	<p>1, 「おしらせカード」をもとに、生活の様子をふり返る。</p> <p>2, 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて いちばんこころにのこった できごとをえ にかこう。</p> </div>	<p>・日常生活の出来事を楽しみながらふり返っている。 (関)</p> <p>・めあてを確認し、学習の見通しをもっている。 (関)</p>	<p>○ 心に残っている出来事を思い起こし、表したい場面への見通しをもつこと。</p>	<p>○ 児童の興味関心を喚起するために、「おしらせカード」に書いた作文を教師がいくつか読む。そして、日常生活の中で心に残った場面を思い起こすことができるようにする。</p>
展 開	<p>3. どんな生活体験をしたのか、「おしらせカード」をもとに思い出す。</p> <p>4, 先生とどんなことをしている場面を描くのかクイズ形式にして隣の席の人やクラス全体で交流し、何を描くのか明確にもつ。</p> <p>5, 動作化をしながら、その時の気持ちを思い返したり、人物の動きに着目したりする。</p>	<p>・日常の生活体験を想起し、こんな出来事があった、その時は楽しかった、ドキドキした、嬉しかったなどと思い起こしている。 (発・構)</p> <p>・体験したことを楽しみながら話したり友達の話に共感しながら聞いたりしている。 (関)</p> <p>・先生と自分との関わりを考えながら絵に表したい場面を思い浮かべている。 (発・構)</p>	<p>○ 生活をふり返り、絵に表したいことを進んで見付けること。</p> <p>○ 絵に表したい思いを言葉で表現し、人に伝えること。</p> <p>○ 絵に表したい出来事を明確にもつこと。</p>	<p>○ 児童が日頃描きためているおしらせカードに、共感的な気持ちを書き添えておく。</p> <p>※ 自分の思いを言葉で表現するのが苦手な児童には、体験した時の気持ちに共感したり、一緒に作文を読んだりして、隣の席の人と交流できるようにする。</p> <p>○ 表したい様子が伝わるためには、画用紙に自分と先生、その時使った道具は必ず描くことをおさえる。</p> <p>○ 頭や手、足が動く画用紙で作った人物模型を教師が操作し、人物の動きにも関心をもたせる。</p>

<p>6, 画用紙のどの位置に, どのくらいの大きさで描けば自分の思いが伝わるかを考える。</p> <p>(1) 画用紙の上で指描きをして, 人物の大きさや動きなどイメージをはっきりともつ。</p> <p>7, 描きたいことが分かるように, こだわりのあるものや, 大事なものから線描きをする。</p> <p>(1) 顔の表情や手の動きなど生活体験を思い返しながらかパスやクレヨンで線描きをする。</p> <p>(2) 細かいところを描き表すときは水性ペンなどの描画材を選んで線描きをする。</p>	<p>・画用紙のどこに, どのくらいの大きさで描こうか考えながら, 指描きをしている。 (発・構)</p> <p>・大きさや位置を考えながら, 線描きすることができる。(創)</p> <p>・体験をふり返りながら, 伝えたい感動をしっかりともち, 進んで線描きする。 (創)</p> <p>・人物の関係や, 周りの様子を考えながら楽しく線描きする。 (発・構)</p>	<p>○ 一人一人が自分の思いをもとに豊かな発想をすること。</p> <p>○ 作品の良し悪しにこだわることなく自分なりの表し方で, 思いのままに活動を楽しむこと。</p> <p>○ 描きながら新たに思いついたことを描き足すこと。</p> <p>○ 自分の表現方法にあった描画材を選ぶこと。</p>	<p>○ 人物を大きく描いたヒント資料と, その場の雰囲気分かるような場面全体をとらえたヒント資料とを提示し, 自分の表したい気持ちが伝わるにはどちらの方の表現に近い児童に考えさせる。</p> <p>○ こだわりのあるところ(目や手, 口など)から描いてみようと言言する。</p> <p>※ 活動が停滞している児童には, 対話をしながらその子がどのような場面を描きたいのか聞き, 思いにあった表現に近付くことができるようにする</p> <p>○ 周りの様子など細かいところは水性ペンを使って描くなど材料提供をする。</p> <p>○ 自分の思いに添った線描きができているか児童に問い返し, 思いと行為が連動しているか児童自身が確かめることができるようにする。</p>
<p>8, 活動のふり返りをし, 次時の活動の見通しをもつ。</p>	<p>・自他の作品のよいところに気付き, 楽しんで見ている。 (鑑)</p>	<p>○ 作品のよいところや面白いところに興味・関心をもって見ること。</p>	<p>○ 次時への学習意欲へつなげるために, 児童の思いに共感したり, 表現のよさを認める言葉かけをする。</p>